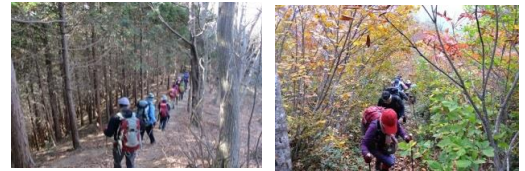


◎樹木も覚えてみよう

花を見に山登りに行っても、目に映るのは樹木の方が圧倒的に多い。樹木もこのページだけではとても語りきれないが、良く目につく樹木について、その判別方法などを簡単に触れて行きたい。ただ、カエデやツツジについては種類が多すぎて写真を載せるのも大変な為、図鑑等で調べて頂きたい。まず1つを完全に覚えたら次の1つというようにすると樹木を見るのが楽しくなる。



登山道にはいろんな樹木が有る

A. 落葉広葉樹

①ブナ、イヌブナ

落葉広葉樹で最も馴染の深いのがブナである。水害から守り、水源を確保するには無くてはならない水源涵養林である。日本では樺と書いて役立つの様に言われているがヨーロッパでは「森の女王」と呼ばれている。ブナの幹は独特の灰白色であり、縞模様が有る。イヌブナはブナより標高が低い所に多く、幹は灰黒色である。共に役立つだけでなく家具等に使用される。実は熊など山に暮らす動物の貴重な食料となる。過去に伐採が進みブナの原生林が少なくなってしまったのは寂しい。白神山地のブナは素晴らしい。



春先のブナ林 秋のイヌブナ

②コナラ、ミズナラ(オオナラ)

里山の代表的な木がコナラとミズナラ(オオナラ)である。昔から炭焼きの材料として盛んに使われてきた。伐採した後に新芽が多数出て世代交代を繰り返す。コナラはシイタケ栽培の原木として使われている。これらの実はドングリとして小さい頃集めて遊んだものだ。また動物の餌としても貴重である。ここでコナラとミズナラの見分け方を書いてみる。友達に蘆薈を披露してみてもはどうだろう。コナラは枝と葉の間(葉柄という)に葉柄がありミズナラは葉柄がない。似たような葉なので葉柄で見分ける。幹は似たように裂けている。



コナラは葉柄有 ミズナラは葉柄無

③シラカバ、ダケカンバ、ウダイカンバ

高原に育つシラカバ林は人気が高い。山火事後などにいち早く育つのがシラカバと言われている。標高が約1500m付近まで群生してシラカバ林をつくる。それ以上の環境ではダケカンバの世界で枝ぶりは荒々しく樹皮はシラカバよりやや茶色味かかき、紙の様に剥がれる。高山帯では風の影響で曲がりくねる。ウダイカンバの樹皮はやや灰色である。樹皮は雨の中でも良く燃えるため、鶺鴒の時に松明代わりに使ったと言われ、この名が付いた。また幹に桜の様な横縞がはいっている。



シラカバ ダケカンバ ウダイカンバ

B. 針葉樹

①シラビソ、オオシラビソ

シラビソは深山に生える常緑高木で高さは25m近くにもなる。群生する事が多く黒々とした森をつくる事が多い。樹皮は灰白色で比較的滑らかである。樹の軸が良く見えるのが特徴で他と見分ける事ができる。実は紫黒色で細長い感じが有る。オオシラビソはオアモリドマツとも言われ高さは30m近くにもなる。しかし森林限界辺りでは2m程にしか成長できない。又小枝が見えない程、葉が密生している。樹皮は灰色である。実はシラビソより短く、色は黒色に近い。この実で大体区別がつく。これらの森林の樹床は暗く、苔に覆われていることが多く、しっとりとしている。北八ヶ岳辺りではこの現象がみられる。



シラビソと実(下) オオシラビソと実(上)



杉 檜

C. その他

①オオカメノキ(ムシカリ)、ヤブテマリ

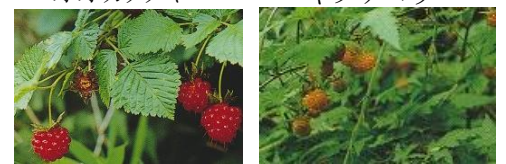
オオカメノキ(ムシカリ)は登山道脇で良く見かける。葉はチジれ白い花がアジサイの様に咲く。秋になると赤い実をつける。ヤブテマリも葉は殆ど同じようであるが、花が密集した白い花で見分けがつく。



オオカメノキ ヤブテマリ

②ベニバナイチゴ、モミジイチゴ

ベニバナイチゴは花が深紅で一目でわかる。そして秋になると真赤な実をつける。勿論食べられて、登山中の喉の渇きを癒してくれる。モミジイチゴも登山道の脇で良く見かける。葉の形状が少し長いナガバノモミジイチゴもある。これは白い花が咲き、目を和ませてくれる。
*実が食べられる物にはこれらイチゴ類の他にクロマメノキ、ガンコウランやクロウスゴ等があり楽しい。



ベニバナイチゴ モミジイチゴ

